

座標: 北緯40度27分53秒 東経140度52分38秒

ウィキペディア

十和田湖

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

十和田湖（とわだこ）は、青森県十和田市と秋田県鹿角郡小坂町にまたがる湖。日本の湖沼としては、最大水深は**326.8m**で第3位^[2]、面積では12番目^[3]。東岸には、十和田湖の水が唯一流れ出る**奥入瀬川**があり、北東に約**14km**にわたり**奥入瀬溪流**が延びる。約**20km**北には**八甲田山**が位置する。

観光地となっており、冬季を除き遊覧船が就航している^[4]。内水ながら、国の**地方港湾**に指定されている港が**2**つある。奥入瀬溪流入り口の子ノロ（ねのくち）港と、十和田湖南岸の中山**半島**西側付け根にある**休屋**（やすみや）港である。

十和田湖は「十和田湖および奥入瀬溪流」として、文化財の**特別名勝**及び**天然記念物**に指定されている。**1936年**には周辺の**奥入瀬溪流**、八甲田火山群とともに**十和田八幡平国立公園**に指定されている。西湖一帯は**みなとオアシス**に登録していて、**十和田湖観光交流センター**ぶらっとを代表施設とする**みなとオアシス十和田湖**として観光拠点ともなっている（全国唯一の**湖**を登録した**みなとオアシス**である）。

目次

地理

湖と環境

水質

生物

生息魚介類

ヒメマス養殖

「十和田火山」の噴火史

有史以降

常時観測火山

観光と歴史

交通手段

その他

脚注

関連項目

外部リンク

地理

十和田湖を擁する山地は、その北に位置する**八甲田山**と同じく、**カルデラ**を有する**火山群**である。十和田火山の**噴火**で形成された**二重カルデラ湖**で、現在も**活火山**に指定されている。最大深度**326.8m**は日本で**3**番目の深さである。湖を真上から見ると胡桃を半分に割った断面図のような形をしており、南岸には西寄りに中山半島、東寄りに御倉（おぐら）半島が突き出している。中山半島の西側付け根近くには恵比寿大黒島という小島がある^[5]。

東岸からは唯一の流出河川である奥入瀬川が太平洋に向けて流れ出ている。十和田湖への流入河川は銀山川、大川岱（おおかわたい）川、鉛山川、宇樽部（うたるべ）川、神田川などがある^[6]。

御倉山（**溶岩ドーム**）のある御倉半島と中山半島の間にある**中湖**（なかのうみ）とよばれる水域が最深部であり、御倉山の東側の**東湖**（ひがしのうみ）や中山半島の西側の**西湖**（にしのうみ）と呼ばれている水域の水深は**50 - 100m**ほどである。

十和田湖



北岸の御鼻部展望台から



十和田湖の位置

所在地	 日本 青森県十和田市 秋田県鹿角郡小坂町
位置	北緯40度27分53秒 東経140度52分38秒
面積	61.11 ^{[1]} km ²
周囲長	46.0 km
最大水深	326.8 m
平均水深	71.0 m
貯水量	4.19 km ³
水面の標高	400 m
成因	カルデラ湖
淡水・汽水	淡水
湖沼型	貧栄養湖
透明度	9.0 m



プロジェクト 地形

なお、江戸時代より郡の境界が不明確で、明治維新後も十和田湖面上の青森県と秋田県との境界は長らく決まっていなかった。2008年8月29日に青森市で開かれた北海道・北東北知事サミットにおいて、青森・秋田両県と沿岸の関係市町が、湖面の境界線を青森県6：秋田県4という割合で県境を画定することで最終合意した。同年11月14日に確定し、12月25日に官報告示された。これにより、1871年の廃藩置県以来、137年目にして県境が決定した。

具体的には、湖の北側にある御鼻部山の頂上から、西側の尾根に当たる桃ノ沢河口と87林班東端の中間点を直線で結び、南側は神田川河口を県境とする。これにより61.02km²の十和田湖は、青森県十和田市に36.61km²、秋田県小坂町に24.41km²が割り振られ、その分の地方交付税交付金（年間総額約6700万円）も増額分配される。なお増額分の交付金は、十和田湖の環境対策や観光振興に使われる。



衛星写真

湖と環境

水質

かつて十和田湖西岸には17世紀中頃に発見された鉛山鉾山と十輪田鉾山があり、鉛や亜鉛、銅を産出していた。この廃鉾山からの流入水は現在も湖水の亜鉛含有量に影響を与えていると考えられる^[7]。

生物

十和田湖周辺は冷温帯林（ブナ林）や亜寒帯林（ダケカンバ林）が広がり、クマタカやイヌワシ、ツキノワグマといった野生動物や森林性の野鳥（シジュウカラ、ゴジュウカラ、アカゲラ、ユゲラなど）が生息する。水鳥（ホシハジロ、キンクロハジロ、ホオジロガモ、カイツブリなど）も飛来する^[8]。

これら鳥獣の生息が重要であることから、国指定十和田鳥獣保護区（大規模生息地）に指定されている（面積37,674ha、うち特別保護地区19,366ha）。

生息魚介類

火山火口にできたカルデラ湖であるため、人間が魚の放流を開始する以前に生息していた魚介類はサワガニのみと考えられている。従って、現在生息している魚類の全てが人為放流された物である^[9]。記録に残る最初の放流は、1855年のイワナとされている^[9]。1960年代に行われた調査では、下記が確認されている。

- 魚類：ヒメマス、ニジマス、イワナ、サクラマス、コイ、フナ、ウナギ、カジカ、ヨシノボリ、ワカサギ
 - サクラマスは奥入瀬川の銚子大滝に作られた魚道を通して天然魚が遡上して定着したが、「ヒメマスが捕食され繁殖を阻害する」との理由で魚道は破壊された。現在生息しているサクラマスは、その時に湖中に残された個体の子孫と考えられる^[10]。
 - ニジマスは、1900年と1919年に日光の中禅寺湖から移入された^[9]。
 - ウグイ、アユは定着に失敗した。
- 甲殻類：スジエビ、サワガニ
 - スジエビは、1905年に八郎潟から移植され定着した^[11]。

ヒメマスなどは漁業や釣りの対象となっている^[12]。

ヒメマス養殖

1903年に和井内貞行らによりヒメマスの最初の放流が行われた。十和田湖へのヒメマスの定着以降は、本州各地の湖への移植用卵及び稚魚の供給源として中禅寺湖とともに重要な位置を占めている。1960年或いは1967年の調査で、流入河川ではなく湖底に産卵床を形成し産卵していることが確認されている。また、1975年と1976年に行われた調査では「漁獲魚のほとんどが放流魚の可能性が高い」との結果が得られたが、1945年前後は放流が全くなかったにも拘わらず、相当量の産卵が行われていた時期もある^[13]。湖畔の秋田県側の小坂町の生田（通称：和井内）地区には、ヒメマスの孵化場がある。



十和田湖湖畔の食堂のメニュー　ヒメマスの塩焼き

「十和田火山」の噴火史

十和田湖は火山の山頂部に水がたまったカルデラ湖である。中世以降は噴火の記録がないものの、「十和田火山」として防災行政の監視対象になっている^[14]。大規模な噴火が将来起きた場合、火砕流が岩手県北西部を含む最大30km圏内に到達し、火山灰や噴石はさらに広範囲に被害を与えるとのハザードマップが公表されている^[15]。

約**20**万年前から活動をし、大きな噴火は、約**5.5**万年前(奥瀬噴火、4.76 DRE km³)、約**2.5**万年前(大不動噴火、17.87 DRE km³)、約**1.3**万年前(八戸噴火、20.34 DRE km³)に起こったと考えられている。十和田湖の原型（外縁）は、約**2.5**万年前に発生した大不動噴火と、約**1.3**万年前に発生した八戸噴火による陥没によってできたと考えられている。東湖や西湖はこの第一カルデラの一部である。1万3000年前の噴火の**火砕流**は青森市付近まで到達している^[16]。

さらに約**1**万年前に十和田カルデラの東南部で噴火によってカルデラ内部に五色岩（または五色台）火山が形成された。五色岩火山は初期に玄武岩を噴出し山体を成長させた。その後、安山岩・デイサイトを経て流紋岩を噴出するようになった。それに伴い爆発的噴火が多発し火口を拡大していった。そして、約**6,200**年前の噴火(中振噴火、2.52 DRE km³)で火口壁が崩壊し第一カルデラの湖水が火口に流入した。これにより中湖ができたと考えられている。

有史以降

915年（延喜15年）大噴火(十和田a噴火)を起こした。マグマ噴出量は2.1 DRE km³[17]。火山爆発指数は**VEI5**。この際に御倉山溶岩ドームが形成された。この噴火は過去**2000**年間、日本国内で起きた最大規模の噴火であったと見られる^[18]。なお、この噴火を直接記録した文献記録は現地では見つかっていないとされている^[18]。

この噴火により大規模な**火砕流**（毛馬内火砕流）が生じ周囲**20**kmを焼払った^[18]。噴出物（主に**火山灰**）は東北地方一帯を広く覆い、甚大な被害をもたらしたと推定される。十和田火山の噴出物は通常**偏西風**に乗り十和田湖の東側に流れるが、この年の噴火では十和田湖の西側に流れている。これは夏のこの地方の気象現象である**やませ**が原因であると考えられている^[19]。東の**三本木原**は昔の十和田火山の噴出物でできているが、やませのため西に流れた噴出物は米代川流域を覆い尽くし、大災害をもたらした。そのことを人々は**三湖伝説**として残したと考えられている。一方で、噴出物により広大な砂地が形成された結果、人々の居住に適した環境が整い居住者の増加に影響を与えた^[20]と考える研究者もいる。

常時観測火山

2016年**12**月**1**日より十和田は気象庁の常時観測火山に指定されることとなった^[21]。

観光と歴史

十和田湖には**マタギ**（猟師）にまつわる伝説もあるほか、湖畔の中山半島にある十和田神社は坂上田村麻呂が平安時代初期の**大同2**年（807年）に創建したとの説もある^[22]。十和田神社は中世に**山伏**が修行し、江戸時代には**南部藩**の霊場となっていた^[23]。

明治末期に十和田湖を訪れた文人の**大町桂月**がその素晴らしさを紹介して以降、風光明媚な観光地として知られるようになった^[24]。

十和田神社が所在し、現在も観光施設や行政・公共機関（郵便局や学校など）、民家が多いのは、湖南岸で中山半島西側付け根の**休屋地区**（青森県十和田市）である。**JR**バス東北の**十和田湖駅**や遊覧船乗り場など交通結節点であり、**環境省**の十和田ビジターセンター^[25]、旅館・ホテル、湖畔に建てられた**高村光太郎**作のブロンズ像「乙女の像」などがある。十和田科学博物館は休館中^[26]。

湖岸ではこのほか、青森県十和田市側の宇樽部、子の口や、湖の西南岸や西岸の秋田県小坂町側にも旅館・ホテル、キャンプ場、集落がある。**十和田湖畔温泉**としていくつかの旅館・ホテルでは温泉に入浴できる。秋田県側の十和田プリンスホテルは十和田湖西湖畔温泉を称している^[27]。湖を取り巻く山々の幾つかには、湖面を見下ろせる展望台が設けられている。

毎年1月下旬（2月上旬） - 2月下旬には休屋で「十和田湖冬物語」が開催され、雪像や**かまくら**などを見ることができる^[28]。。また、**20**時頃から冬花火も打ち上げられる。ただし、この時期は近隣の**国道102、103、394、454号**、**青森県道40号**の一部区間が冬季閉鎖や夜間交通規制の対象となるため、来場する際は注意が必要である。特に**18**時以降は**八甲田山**周辺の通行ができないため、冬花火を見るなどしてこの時間帯に青森方面や黒石方面へ帰る場合は小坂インターチェンジ方面か十和田市方面へ大きく迂回する必要がある。

毎年7月の第三金・土・日曜日には「湖水まつり」が開催され、また7月下旬の日曜日には十和田湖一周道路（約**50**km）を約**12**時間かけて歩く「十和田湖ウォーク」が行われる。

青森・秋田県境にあるため、土産物屋では青森の特産物（**りんご**など）と秋田の特産物（**きりたんぼ**や**樺細工**）とが両方販売されている。

湖上には観光用の**遊覧船**が運航している。かつては**十和田湖観光汽船**（青森県青森市）の定期航路が開設されていたが、東日本大震災による東北観光の低迷などにより**2013**年に経営破綻。**2014**年5月からは十和田湖観光汽船（青森県十和田市）の従業員が十和田湖遊覧船企業組合（青森県十和田市）を設立したが、この航路も**2016**年に廃止となった^[29]。これとは別に十和田湖には**十和田観光電鉄**（青森県十和田市）が定期航路を開設している^[29]。



十和田カルデラの地形図



カルデラ壁

2003年 - 2004年ごろの300万人をピークに観光客は減少を続け、特に東日本大震災のあった2011年には大きく数を減らした。その後回復傾向にあるとはいえ、2014年でも最盛期の2/3に満たない^{[30][31][32]}。この影響で、宿泊施設^[33]や土産物屋の休廃業が相次ぎ、これらが集まる休屋地区は「廃屋通り」と呼ばれるほどの惨状を呈している^[34]。こうした現状を打破すべく、環境省と地元関係団体は「国立公園満喫プロジェクト」^[35]において「十和田八幡平国立公園　ステップアッププログラム2020」^[36]を策定し、再開発に乗り出した。

交通手段

鉄道下車駅	乗車路線	所要時間	下車停留所
東北新幹線盛岡駅	岩手県交通盛岡・十和田湖号	約2時間15分	十和田湖下車
東北新幹線八戸駅	JRバス東北おいらせ号	約2時間20分	十和田湖下車
東日本旅客鉄道（JR東日本）/青い森鉄道青森駅	JRバス東北みずうみ号	約3時間	十和田湖下車
花輪線十和田南駅	十和田タクシー八郎太郎号(デマンドバス)	約1時間	十和田湖下車

- 空港
 - 大館能代空港より乗合タクシー（愛のりくん　・十和田湖号）^[37]
 - 十和田湖休屋・西湖畔下車（1時間55分）

その他

- 2008年4月、同湖で死んだハクチョウ3羽と衰弱したハクチョウ1羽が見つかった。同月23日簡易検査で鳥インフルエンザと推定されたため、同月27日動物衛生研究所（茨城県つくば市）で再検査したところ鳥インフルエンザウイルス強毒性のH5N1亜型が検出されたと秋田県と環境省が同月28日に発表した。
- 十和田湖遊覧船企業組合が事業を廃止した後も遊覧船は撤去されず、2017年3月時点でも放置された状態が続いている^[34]。

脚注

- ↑ 国土地理院 (2015年3月6日). “平成26年全国都道府県市区町村別面積調 湖沼面積” (http://www.gsi.go.jp/KOKUJYOHO/MENCHO/201410/kosyo.pdf) (PDF)”. 2015年3月8日閲覧。
- ↑ 国土交通省「日本の主な湖沼」 (https://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kasen/jiten/toukei/birn30p.html)
- ↑ 国土地理院 (2015年3月6日). “平成26年全国都道府県市区町村別面積調 湖沼面積（20傑）” (http://www.gsi.go.jp/KOKUJYOHO/MENCHO/201410/large_kosyo.pdf) (PDF)”. 2015年3月8日閲覧。
- ↑ 十和田湖遊覧船 (http://www.toutetsu.co.jp/ship.html)十和田観光電鉄ホームページ（2018年2月4日閲覧）
- ↑ 溶岩の島「恵比寿大黒島」休屋周辺みどころ (http://towadako.or.jp/sansaku-map/yasumiya/)一般社団法人・十和田湖国立公園協会（2018年2月4日閲覧）
- ↑ 十和田湖 (http://www.aomori-itc.or.jp/index.php?id=289)青森県産業技術センター内水面研究所（2018年2月4日閲覧）
- ↑ 十和田湖の湖底堆積物の地球化学的特徴 (http://www2.jpgu.org/meeting/2004/pdf/c003/c003-010.pdf) (PDF) 日本地球惑星科学連合
- ↑ 御前ヶ浜の鳥／休屋周辺みどころ (http://towadako.or.jp/sansaku-map/yasumiya/)一般社団法人・十和田湖国立公園協会（2018年2月4日閲覧）
- ↑ ^{*a*} ^{*b*} ^{*c*} 十和田湖に棲息,している魚類 (http://salmon.fra.affrc.go.jp/kankobutu/srhsh/data/srhsh148.pdf) (PDF) 水産庁による調査
- ↑ 徳井 利信：十和田湖の湖水型サクラマス (*Oncorhynchus masou*) について (https://doi.org/10.11233/aquaculturesci1953.10.133) 水産増殖 Vol.10 (1962) No.2 P133-136
- ↑ 十和田湖に於けるスチエビLeander paucidcns (de Haan)の生態学的研究 (https://doi.org/10.3739/rikusui.7.31) 陸水学雑誌 Vol.7 (1937) No.1 P31-44
- ↑ 十和田湖での釣りはルールを守って楽しみましょう!! (http://www.towadako-gyokyou.com/fishing/)十和田湖増殖漁業協同組合（2018年2月3日閲覧）



十和田神社



十和田湖遊覧船



複合艇による遊覧ツアー



ブロンズ像 乙女の像

- 関連項目

- 休屋（当湖南岸にある観光地）
- 奥入瀬溪流
- 御倉山
- 日本新八景
- 日本の湖沼一覽
- 十和田湖観光汽船

- [三湖伝説](#)
- [稻生川](#)
- [青森県の観光地](#)
- [秋田県の観光地](#)
- [美しい日本の歩きたくなるみち500選](#)
- トワダ湖 - 土星の衛星・[タイタン](#)にある湖。十和田湖にちなんで命名された。
- 一式双発高等練習機 - 北部第74部隊（北方軍指揮下の内地部隊の通称号）所属と見られる1機が1943年（昭和18年）9月27日に墜落。[2012年](#)（平成22年）9月5日に湖底から引き揚げられた。機体は[青森県立三沢航空科学館](#)に展示され、同年11月1日から一般公開されている。
- [とわだ型補給艦](#)・[とわだ（補給艦）](#)

外部リンク

- 十和田 (http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/sendai/204_Towada/204_index.html) - 気象庁
 - 日本活火山総覧(第4版)Web掲載版 十和田 (http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/souran/main/24_Towada.pdf) （PDF） - 気象庁
 - 日本の火山 十和田 (https://gbank.gsj.jp/volcano/Quat_Vol/volcano_data/D14.html) - 産業技術総合研究所 地質調査総合センター
 - 社団法人十和田湖国立公園協会 (<http://www.towadako.or.jp/>)
 - [みなとオアシス十和田湖](http://www.pa.thr.mlit.go.jp/kakyoin/minato-oasis/feature/ao_towada/index.html) (http://www.pa.thr.mlit.go.jp/kakyoin/minato-oasis/feature/ao_towada/index.html)
-

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=十和田湖&oldid=73192601>」から取得

最終更新 2019年6月21日 (金) 13:39（日時は 個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は[利用規約](#)を参照してください。